

重要文化財大安寺本堂ほか7棟 保存修理事業の経過報告

あげや 本堂の揚屋工事が行われました

基礎の補強や補修のために建物全体を持ち上げる揚屋工事を行っていた本堂ですが、基礎工事が完了し、元通りに下ろされました。今回は本堂の揚屋工事について詳しく紹介します。

地盤沈下を防ぐために

本堂の破損は地盤沈下によるものも多数ありました。地盤沈下を防ぐために、今回の修理では一旦すべての基礎石を取り外し、建物の重さを支えるため基礎の底全面をコンクリートで固めました。その後に基礎石を元の場所に据え直しました。



柱を支える石材の補修と補強

本堂の基礎石にはすべて笏谷石が使われています。

すべての石材には番号を振り、場所やサイズなど詳細に記録をとったうえで慎重に取り外しました。そしてひとつずつ状態を確認し、割れや欠けは専門の職人達が丁寧に補修しました。

これらの石材も文化財修理の原則に基づき、痛みがひどい箇所は新しい石材を継ぐなどして、なるべく元々使用していた古材を再利用しています。



様々な形がある柱の根継^{ねつぎ}

建物が持ち上がったことであらわになった柱の根元は、シロアリや腐れなどで傷みがひどいものはその箇所を切り落とし、新たな木材と接合しました(根継)。

柱それぞれに傷んでいる箇所や程度が違うので、それらに応じて根継の方法の詳細を決めて行います。



建物が下ろされました

基礎工事と柱の補修が終わり、持ち上げていた本堂を元通りに下ろしました。持ち上げた時の逆の手順でゆっくりと下ろしていきました。



写真で見比べてみると、基礎や柱の補修・補強がしっかりと為されていることが分かります。地盤沈下や地震などの自然現象に対する備えも、文化財建造物を長く残していくためには重要なことです。

この後は、柱の位置や傾きを調整しながら定着させ、レールなど揚屋工事のための機材を最後に取り外して搬出します。



今後の工事予定

揚屋工事が終わった本堂は、解体後に保存していた古材の傷みを繕う作業とともに順次組立工事が進んでいます。繕い作業では大工が木材のひとつひとつを確認し、傷んだ箇所を切り落としたりはぎ取ったりして、再び使用できるように新たな木材を継いでいきます。

また、福井藩お抱えだった狩野派の絵師による絵が描かれている襖などの建具は、美術品としての価値も損なわぬように専門の組織・職人によって修覆されます。

情報発信しています

これまでの工事経過はこの季刊報告書の他にも動画やパンフレットなど、様々な媒体で情報発信しています。ぜひご覧ください。



タブロイド Vol.1

発行しました

今回の修理工事を通して見えてきた歴史をより身近に感じられる内容です。(隔年発行予定)

設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会（東京都荒川区）

工事請負：松浦建設株式会社（石川県能美市）

